

医療法人恵徳会 小田代病院 広報誌

院内新聞ふあみりー

「ご来院される患者様は自分の家族と思って、心の通った暖かな医療を提供する病院を目指す」に由来して院内新聞ファミリーは創刊されました。

(発行日)
平成21年 1月 日

(発行元)
小田代病院
企画室/広報委員会



<新春号>

<新年のごあいさつ>

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は多大なるご厚情を賜り、衷心より御礼申し上げますとともに、本年も皆様方のご健勝とご多幸をご祈念いたしております。

さて、皆様にとって平成20年はどのような年でしたでしょうか？また、平成21年の丑年は、どのような年になりそうでしょうか？いずれにしても、笑って過ごせる年にしたいものです。

去年はアメリカの金融業界の破綻による影響が全世界に飛び火して、わが国においても主に自動車産業などで数万人単位で職を失う方が発生するなど、経済情勢の悪化が更に様々な社会問題を生み、今後の国民生活を脅かすことが予見されています。

医療においても、「病院のタイ回し」「病院から追い出された医療難民」など、ありがたくない話題で賑わいました。

産科、小児科の医師不足、救急医療体制の崩壊、高齢者医療の抑圧など、医療の抱える矛盾点が大きくクローズアップされ、年金問題も含め、社会保障制度に対する国民不安が一層深まった年だったと思います。

依然として不安定な政治情勢ではありますが、今までの抑制至上主義から、少し変わった動きが出始めています。小泉政権の時に生まれた「医療費亡国論」(医療費の増大によって国家が滅びる)から離脱し、産科、小児科、救急医療に関する診療報酬引上げ、介護施設の労働環境整備を目的とした介護報酬引上げを行い、崩壊しかけている救急医療、高齢者医療(介護)を重点的に立て直そうとする動きです。

一筋の光明ではありますが、政局が安定してこの方策が具現化することを今は願うだけです。しかし、何があろうと私達医療人の使命は「患者様を治す」ということです。地域の医療機関と連携して、皆様の健康をお守りすることで、社会に貢献したいと考えております。

当院は本年も救急医療、地域医療に積極的に取り組み、皆様のホームドクターを目指して職員一同頑張りますので、皆様のご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

